

東京都世田谷区，府中市で掘削された上総層群ボーリングコアのテフラ対比 Correlation of tephras in the Kazusa Group core from Setagaya and Fuchu areas, Tokyo, central Japan

後藤 翠^{1*}, 遠藤 邦彦², 船引 彩子³

Akira Goto^{1*}, Kunihiro Endo², Ayako Funabiki³

¹ 日本大学大学院総合基礎科学研究科, ² 日本大学, ³ 日本大学工学部機械工学科

¹Nihon University, ²Nihon University, ³Nihon University

関東平野蔵野台地南部の東京都世田谷区，府中市において合計3本のオールコアボーリングが掘削された。これらのコアに関して，堆積相，物性，微化石，化学組成，古地磁気層序の研究が行われている（船引ほか，2012；植木ほか，2012）。本研究はコアの上総層群部分で採取されたテフラの記載岩石学的性質を調べ，対比を行なった結果の報告である。

NUCHS-1 コアは世田谷区桜上水の日本大学文理学部構内で掘削された。コアの長さは80mで，深度12.7mまでは立川ローム層から武蔵野ローム層，On-Pm1 テフラ，段丘礫層からなり（栗原ほか，2012），それ以下の深度では前期更新世の上総層群の砂層からなる（植木ほか，2012）。深度59.98mのガラス質火山灰は鉱物組成，ガラス屈折率，ガラスの主成分化学組成から，多摩丘陵飯室層の西久保テフラ（鈴木・村田，2011）と対比される。これらの結果から，飯室層に対応する東京地下の上総層群東久留米 - 北多摩層と判断される。

TAT-1 コアと TAT-2 コアは府中市の東京農工大学構内で掘削されたコアで，長さは TAT-1 コアが 50m，TAT-2 コアが 55m である。TAT-1 コアでは深度 11.5m まで，TAT-2 コアでは深度 8.9m までは，段丘礫層とそれを覆う立川ローム層からなり，それ以下の深度では前期更新世の上総層群のシルト・砂・礫層からなる。TAT-1 コアの深度 36.85m，TAT-2 コアの深度 41.56m のガラス質テフラは房総半島養老川で得られた大田代層 O21，TAT-2 コアの深度 43.75m のテフラは大田代層 O22 に対比される。これらの結果から，コアは上総層群大田代層に対応する東京地下の舎人層と判断される。

引用文献

船引ほか（2012）地球惑星科学連合大会 2012 年要旨 HQR23-03；植木ほか（2012）地球惑星科学連合大会 2012 年要旨 HQR23-02；栗原ほか（2012）日本第四紀学会大会 2012 大会要旨集；鈴木・村田（2011）地質学雑誌，117，379-397

キーワード: 上総層群, テフラ, 関東平野, 武蔵野台地

Keywords: Kazusa Group, tephra, Kanto Plain, Musashino Upland